



d、さんば烏帽子

さんばの使用せ

るもの、厚紙細工

製にして、立烏帽

子と同様の縫ひと

りが下方にある。

使 大きさは高さ7

寸横4寸8分位で

ある。寫眞はさん

ば烏帽子を被れるところであ
る。

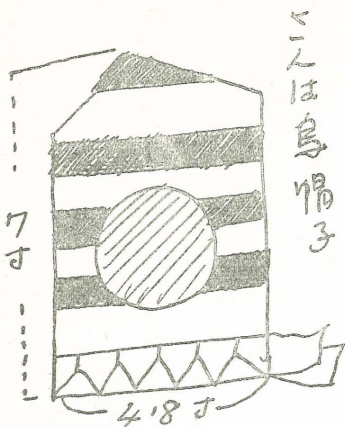
烏帽子

烏帽子の大きいものは、横

の全長一尺四寸ある。厚紙細

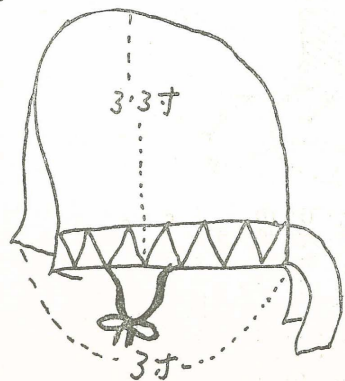
工の上に黒色を塗つたもので

ある、立烏帽子に似て居り形



子帽烏ばんさ

金烏帽子



がそれよりは大きい。

f、金烏帽子

褐色の布を厚紙細工の上に張つて作つ

たもので横3寸高さ3寸3分位のもので

ある。芝居では「しほくみ」等の場合に

用ふる。(未完)

私の蒐集郷土玩具に就いて

圖三 磯 部 陽

私が郷土玩具に親しみをもち研究しはじめたのは人間と云ふものの眞實の生活を知る上から決して閑却さるべきでない
と信じたからです。土から生れ出た純朴な藝術を唯「ガラクタ」と卑下蔑視し世人から忘れられようとしてゐるのは誠に
慨歎に堪へない。最も好意を寄せる少數の蒐集家さへも單に蓄へてその雅趣を楽しむの範圍に限られ全く郷土玩具の何た
るかを解するもの少なく日本民族の成長と何ら無關係の如くに忘却され來つた。

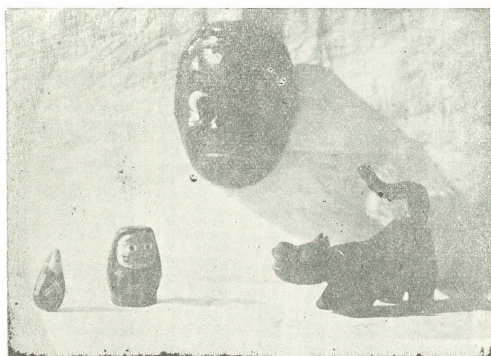
蒐集且つ研究家武井武雄氏は「獨逸のルムプ氏は過去の日本とロシヤとは世界の有した二大郷土玩具國であると申して
ゐるがロシヤは實に尊敬すべき農民美術を有し工藝品又は童玩に非凡な藝術的氣稟と北歐の素朴極まる野趣とを示したが
要するに帝政時代のことには屬し、日本の玩具が徳川期をその舞臺としてゐた點と相似た趣をもつてゐる云々」と云はれて
ゐるがそれ程日本の玩具は各地至る所普遍し且つ何れも深い郷臭を糧として生育し、又その大部分が幼稚なる寫實を離れ
天才的想像を以てその個性を表玩してゐる。日本の過去は世界屈指の郷土玩具國であると云ふ。然らば一體どんなものが
あつたか。日本民族はどんな玩具に育まれて今日の大を成すに至つたか。小生が郷土玩具の研究を思ひたつてより未だ三
歳を過ぎず一括して論ずることは出来ないが、東北福島をその郷里とする關係で蒐集郷土玩具の中から、こゝでは主に福

島縣に残された玩具のみに就いて述べてみたいと思ふ。

三春の張子。多くの蒐集家の愛玩の的となつてゐる三春の張子は全く天下一の名玩である。全國張子中その右に出るものがない。然しこの張子も今や老衰期を過ぎて絶滅に瀕してゐるのは全く惜しいことである。

三春人形の最盛期は文化文政の頃だと云はれてゐる。江戸の失業人形師が同地に來て作つたと云ふ説と三春城主が江戸でみて來た歌舞伎の振事を抱へ人形師に作らせ代代扶持を給せられ今日に及んだと云ふ説がある。

何れにしろ、この玩具は他の張子と比べて斷然質に於ても堅固色彩表現そのすべてに熟達られてゐる。一寸八分位で型は細長い。



右より首振虎 天狗面 達磨 起姫

したものである。

首振虎。大中小何れもその様式を異にし腰高にそして小首を傾けたその姿勢が如何にも面白い。全體が黄色で黒の縞模様と赤とが全體と調和して非常によい。

達磨。この製作は各地に何れも繼續され縣下の久の濱、瀬の上、若松等での達磨市には大小幾つもの型が賣出される、三春のは八九寸が最もその特徴をみせてゐる。

起姫。養蠶の守護として何れの農家にも飾

俵牛。小型のもので三四寸あらう。胴は赤、俵は緑と群青とあり、首は黒で白の描線が粗朴ないい味を出してゐる。

玉兎。これは首振りにはなつてゐないが虎、俵牛と同様胴の前に縮まつてゐる點、眼の丸く大きいのがや背の花模様等よ

く三春の特徴を出してゐる。この外天神、踊女、獅子頭等實に傑作が多い。

面。誰もが推奨する三春の面は實に秀れたもので、就中狐と獅子、天狗の三つは優秀である。狐の眼の周圍を群青で隅取つたのや天狗の青い眼口元の強さ等感服の外はない。製作者 橋本鶴吉(田村郡高野村) 橋本廣定(高柴字福内)

三春の子育木馬。天下に知られる三春駒と同巧のものであるが、小型のお守で、これを弄ぶ子は健康に成長すると

云ふ傳説がある。

三春駒。童玩に主眼をおき護符子育の大型のものである。名馬の産地にしてこの名玩ありだらう。馬の様式化に於いては八戸の野趣に富み飯坂の素朴なものに比して垢抜けした全く洗練された玩具である。

作者は張子と同一人である。

會津若松の張子。三春のものとその發祥は何れが古いかは未だ明確ではないが、とにかく三春と相影響し合つて今日に及んだものとして東北諸玩具中その起原は拔んで古いとされてゐる。

赤ペーコ。若松張子中での傑作で赤一色で塗られ、唯首の付け根と足先が黒でよい調和をとつてゐる。

起姫。三春のに比して更に頭端が尖つて坐りの良い姿をとつてゐる。顔の描線も實に簡單で子供の作品を思はせられる。正月或ひは達磨市に賣出され、町の人は必ず購つて歸り之れを神棚に祀り幸福を祈る。外に乗馬大名、天神等がある。

會津若松の練物。殊に天神は驚くべく立派なもので、端麗に磨き出された面長の顔はすばらしく良い。古型になると丸顔で下ぶくれの氣味になつてゐる。又大型の中は胴が張子でそれに練の首が付いてゐる。外に獅子頭、熊金、福助

等がある。張子及び練物製作者 會津若松市中五ノ町

五十嵐新吉

會津若松の姉さま。布張りの顔、體一つ一つ白紙に張り付け白虎雛とも呼ばれてゐる。郷土味深いものである。外に女土地雛、風車、白虎刀、初音、奴鳳等がある。

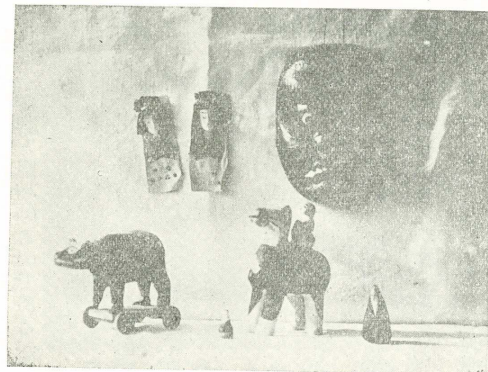
久の濱張子。三春や若松に比べると薄張りで色のけぼしさが如何にも安っぽい感起させるが又よく農家のおもちやらしさが出てゐる。

馬。原色の赤と黄の配合、何の技巧も施さないその形、可愛い玩具である。系統は仙臺張子の弟子に當つてゐる。

製作者、双葉郡久ノ濱町、菅野屋、草野源吉

面。天狗は就中特色あるもので濃紅のそして漠大に長い鼻とが三春のものよりも活氣があり秀れてゐる。

福島まざる。例年正月になると各社前の露店で賣出す。「買はんしょく」福まさる、去年にまさる福まさる」と客を呼ぶ縁喜もので、弓型の弦に猿を真似た素焼の土鈴を通し鶏のムク毛を付け弦を踊りながらカラカラ音をたてて下りるようになった。外に木馬、姉様、姉さま、達磨、起姫、繪馬等がある。



上久段ノ久 濱張子 天狗面 會津若松 姉さま 瀬上起姫

天神。底が丸く張つて顔立も面白い。大きさは八寸位から尺餘に及ぶ。外に熊金、虎、俵牛等がある。又相馬の馬乗武者、仰津虚空藏の臥牛、岩角山觀音の撫牛、東山の弓矢等々あるが記すまでもない。

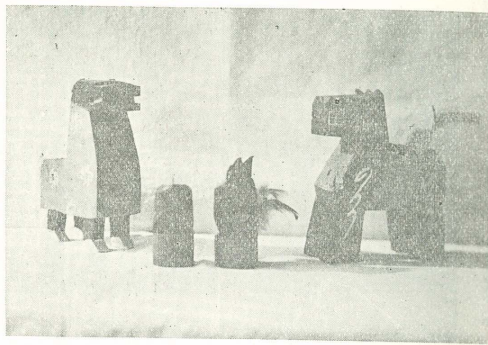
瀬の上の起姫。實は鎌田村の産であるが、陰曆十二月二十七日瀬の上達磨市に出されるので瀬の上起姫と稱せられてゐる。三春のと殆ど同じであるが三春のより型は鋭く顔も簡単に描かれてゐる。

製作者 信夫郡鎌田村新町渡邊重五郎

飯坂木馬。三春のとは似てゐるが足のふんばりがなかなか良く出来てゐる。又顔の白描も異にし、ひどく荒削りに仕上げてゐる。

オケケンさま。鶏權現として農家の棚に飾られたもので一刀彫の實に野趣豊かなものである。

獅子かぐら。雪はれのうら暖い日、里から里へ渡り歩く獅子舞からヒントを得たもので、胸のそり具合等は實によい。獅子の鬘の代りに鶏のムク毛をつけてゐる。



飯坂木馬 オケケン様 獅子かぐら

次に郷土の玩具として忘れられぬものに「こけし這子」がある。この「こけし」は我が東北に限つて存在し絶対に他の地に

い。實際の人形の感じは實に可愛らしいもので、その單純な形の中にそれぞれの味をもつてゐる。この玩具の特殊な理由は「本地挽」と云ふ特殊職業者が傳統的に作つてゐる人形だからです。

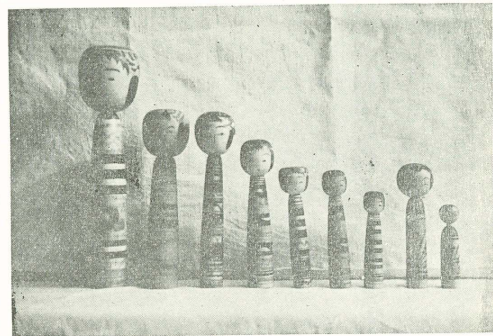
天江富彌氏の説によると「こけし這子」は「おしやぶり」から進轉したものらしい。各地のこけしをみるに胴の太いも

の或ひは細いものあり、首の動くはめ込み式のものあり、或ひは動かぬものあり、種々あるが之れは即ち「こけし」の通つて來た發達の経路を表はすものと云へやう。

飯坂こけし。作者佐藤は彌治郎系から分れた弟子で東北「こけし」中でも優秀の方である。細眼丸顔の面白い個性を表現してゐる。又肩の線は實に巧である。胴のあやめ模様も彼の作風である。今では殆ど製作をやめてゐる。

鯖湖こけし。作者渡邊角治は土湯から渡つて來た人であるが、數年前死去しその傑作も絶えてしまつた。飯坂鯖湖湯の近傍に居を定めてゐた故かく呼ば治郎、西山辨之助等何れも餘り幼稚な感じがする。西山辨之助は齡八十の老體でさへ余のため特に作つてくれたが氏としては愚作の方であつたらう。外に熱鹽こけし、熱海こけし、玉山こけし、嶽こけし、中之澤こけし等あるが現今は餘り作らないらしい。

以上餘り概括的で郷土玩具のもつ眞髓にふれなかつたことを遺憾とする。唯余の郷土紹介の意味でこの稿を終へたい。



右ヨ飯坂(佐藤榮治) (山西辨之助) (同) (山西治郎) (同) (湯土) (同) (齊藤太郎治) (阿部新治郎) (史廣部阿) (助之辨山西)

れる。現今は渡邊きん及びその息子が店を開いてゐるが製作はしない。角治の作は頭角があり胴は下廣く均衡のとれた形と頭部の色彩が非凡である。

製作者 飯坂温泉十綱町 佐藤榮治

土湯こけし。現在作者五人あるが各々異つた形式をみせてゐる。最も秀れてゐるのは齋藤太治郎の作で胴の轆轤描きの横編の巧みさと顔描きの非凡とは全く熟達したもので、他のものとは格段の差がある。共通した點は頭の縞線である。次に阿部廣史のかはいらしい顔と胴の中段に椿模様を取入れたのは面白い。他の阿部治助、阿部新

朝日ビルの必然的發生

圖三 英 賀 重 雄

近代に於ける本邦建築界に於て、最もセンセシヨナルな渦紋を投じた建築は、一九三二年度收獲の一つである朝日ビルディングの出現であつた。様式的觀點からも構造的觀點からも一つの革命であると云へる。

左に工事概要を摘出して見よう。

位置 大阪市北區中之島三丁目
建坪 三百九十三坪六合七勺四才
延坪 四千五百二十一坪三合九勺八才
構造 鐵骨鐵筋コンクリート造
階數 地下二層地上十層塔屋二層
高さ 軒高百十七尺五寸標識塔避雷竿頂迄二百四十二尺四寸五分
工程 昭和五年一月十一日起工昭和六年十月二十五日竣工

從業延人員 約十四萬餘人

設計及施工 竹中工務店 設計 石川純一郎 構造 青柳貞吉

各階用途

第二地階 汽罐室、機械室、電氣室、空氣洗滌、重油タンク水槽及汚水淨化槽、等

第一地階 大衆食堂、朝日新聞社食堂、電話交換室、倉庫、守衛室

一階 朝日新聞社營業室、綜合店舖、銀行、郵便局、煙草店、等

二階 專門大店賣場陳列場

五階 俱樂部室、運動室、集會室、理髮室、寫眞室、齒科醫室、等

十階 本みやけ和食堂、アラスカ洋食堂